



2月の  
おはなし

# シンデレラ

昔々、シンデレラと呼ばれる、心の優しい女の子がいました。

ある時、お母さんが亡くなってしまい、新しいお母さんと二人のお姉さんが家にやって来ました。

新しいお母さんたちは、とてもいじわるで、シンデレラに家の仕事を全部させていました。シンデレラは、いつもぼろぼろの服を着るようになりました。

ある日、家にお城から舞踏会の招待状が届きました。

お姉さんたちは大喜びで、シンデレラに手伝わして準備をします。もちろんシンデレラは、連れて行ってもらえません。

お姉さんたちが舞踏会に出掛けたあと、シンデレラが一人で悲しんでいると、魔法使いのおばあさんが現れました。

「シンデレラも舞踏会に行きたいんだろう?」そう言って、カボチャとハツカネズミと大きなネズミ、それからトカゲに魔法を掛けました。

きらきらきら...

なんと、カボチャは馬車に、ハツカネズミは白馬に、大きなネズミは御者に、トカゲはお供の人に変身しました。

そしておばあさんは、驚いているシンデレラにも魔法を掛けました。

きらきらきらりん...!

シンデレラは、美しいドレスを着たお姫様に変身しました。

おばあさんは、ガラスの靴を渡して言いました。

「いいかい。」

夜中の12時を過ぎると魔法は解けてしまうから、それまでに帰って来るのだよ。

さあ、行ってらっしゃい!」

シンデレラは大喜びで、舞踏会に出掛けました。

お城では、美しいシンデレラに誰もが目を奪われました。

シンデレラは王子様からダンスに誘われ、時間が経つのも忘れて、夢のような時間を過ごしました。

ボーン ボーン ボーン...

12時の鐘の音が響きました。

シンデレラははっとして、

「帰らなきゃ!」

追いかける王子様を振り切って、慌てて階段を駆け下りたときに、シンデレラは、ガラスの靴を片方落としてしまいました。

家に着いて魔法が解けたシンデレラは、いつもの生活に戻りました。

そんなある日、シンデレラの家に、お城の使いがやって来て言いました。

「このガラスの靴にぴったり合う娘さんを、探しています。」

王子様は、その娘さんをお嫁さんにしたいと言っているのです。」

シンデレラのお姉さんたちは、我先にガラスの靴を履こうとしましたが、二人ともきつくて履けません。

お姉さんたちは、悔しくて仕方ありません。

すると、部屋の隅にいたシンデレラが、お

ずおずと手を挙げました。

「私も履いていいですか?」

なんとガラスの靴は、シンデレラにぴったり!

使いの者は、

「あなたが、王子様の探していた娘さんですね!」

さあ、お城に行きましょう!」

シンデレラは王子様と結婚して、幸せに暮らしました。

(おしまい)